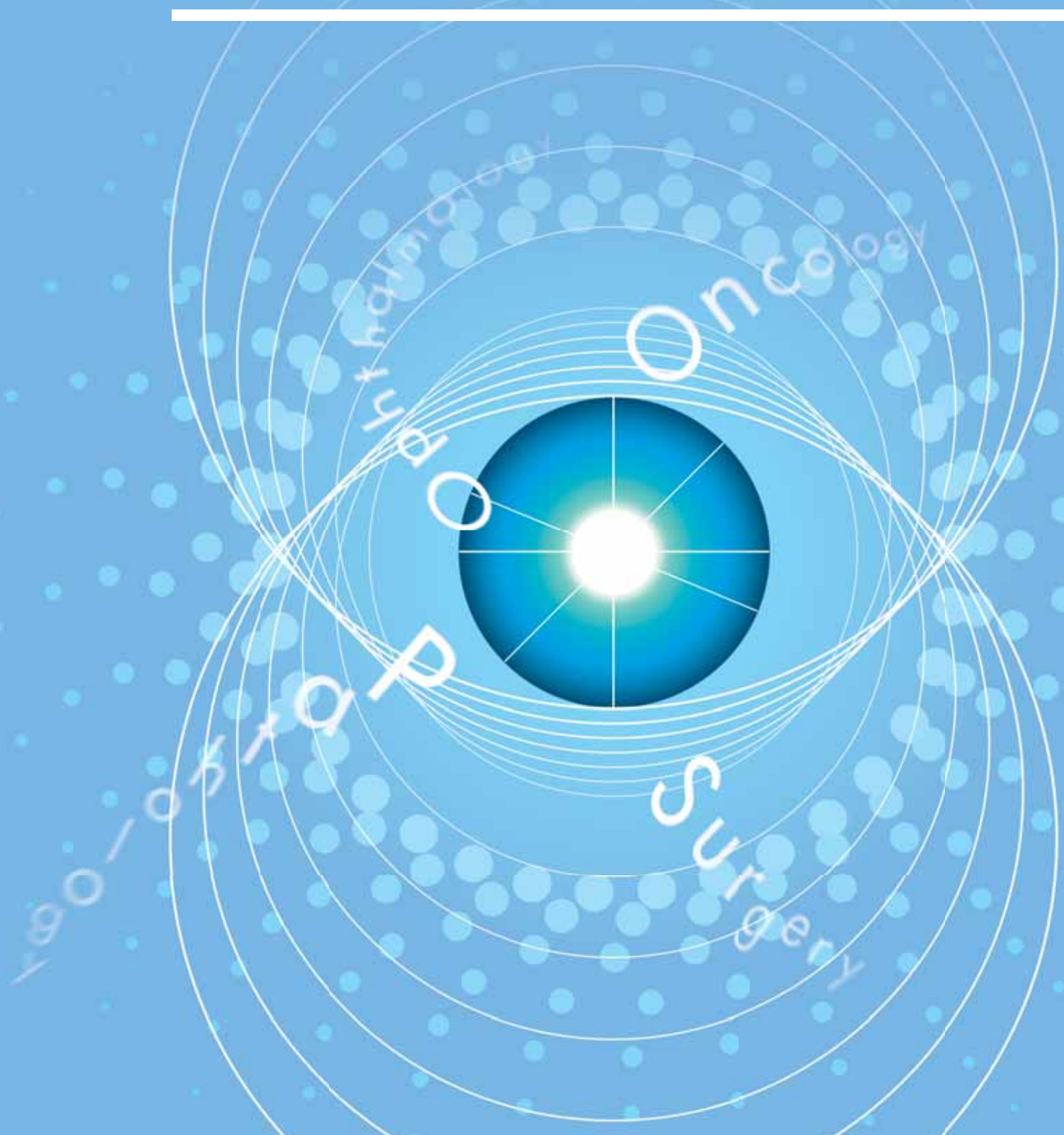


日本眼腫瘍学会誌

Journal of
Japanese Society of Ocular Oncology Vol.11 2022
September



日本眼腫瘍学会誌

Journal of
Japanese Society of
Ocular Oncology

Vol. 11 2022

September



目 次

原 著 論 文

眼裂斑炎に類似した結膜の actinic granuloma の2例	小幡 博人・吉川 洋	1
---------------------------------------	------------	---

第38回日本眼腫瘍学会 記録集

第38回日本眼腫瘍学会を終えて —緊急事態なんてこわくない?—	吉川 洋	9
第38回日本眼腫瘍学会 プログラム		12

第38回日本眼腫瘍学会 学会印象記

特別講演を拝聴して	藤井 裕也	19
一般口演1 結膜悪性黒色腫	加瀬 諭・田邊 美香	21
一般口演2 結膜腫瘍と眼瞼腫瘍	小幡 博人・兒玉 達夫	23
一般口演3 各種治療	鈴木 茂伸・溝田 淳	25
一般口演4 眼窩リンパ増殖性疾患	安積 淳・高比良雅之	27
一般口演5 間葉系腫瘍	上田 幸典・敷島 敬悟	29
一般口演6 マイボーム腺癌	白井 嘉彦・渡辺 彰英	31
一般口演7 珍症例難症例	大島 浩一・大湊 絢	33
一般口演8 眼内腫瘍と視神経腫瘍	高橋 寛二・古田 実	35

最新の文献から

加瀬 諭	37
白井 嘉彦	39
小幡 博人	41

寄 稿

International Society of Ocular Oncology (ISOO) 2022 in Leiden に参加して	加瀬 諭	42
---	------	----

学会記録集

日本眼腫瘍学会の歴史	48
役員一覧	49
会 則	50
入会案内	53
投稿規程	54
著作権譲渡同意書	55
タイトルページ作成要項	56

編 集 後 記

小幡 博人	57
-------	----

原著論文

瞼裂斑炎に類似した結膜の actinic granuloma の2例

○小幡 博人¹⁾、吉川 洋²⁾

1) 埼玉医科大学総合医療センター 眼科

2) 九州大学大学院医学研究院 眼科学分野

Two cases of conjunctival actinic granuloma mimicking pingueculitis

○Hiroto Obata¹⁾, Hiroshi Yoshikawa²⁾

1) Department of Ophthalmology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University

2) Department of Ophthalmology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University

〈要 約〉

【目的】 Actinic granuloma は弾性線維変性と多核巨細胞を含む肉芽腫性炎症を特徴とする疾患である。結膜の actinic granuloma は非常に稀であるが、ここに2例を報告する。

【症例】

症例1：41歳女性。ステロイド点眼に反応しない瞼裂斑炎という診断で紹介された。右眼の耳側球結膜に数個の小結節を伴う瞼裂斑様の腫瘤を認め、充血を伴っていた。リンパ系の腫瘍性病変を考え切除した。病理組織学的に、結膜上皮は扁平上皮化生を生じており、粘膜固有層に弾性線維変性と軽度のリンパ球浸潤と多数の多核巨細胞の浸潤を認め、actinic granuloma と診断した。

症例2：33歳女性。左眼の耳側球結膜の瞼裂斑の生じる部位に充血を伴う腫瘤を認めた。腫瘍性病変を考え切除した。病理組織学的に、結膜上皮は扁平上皮化生を生じており、粘膜固有層にリンパ球や好酸球の浸潤と複数の多核巨細胞を認め、また弾性線維変性もみられ、actinic granuloma と診断した。

【結論】 本疾患は看過されている可能性がある。結膜腫瘍・腫瘍の鑑別診断として、そして病理組織学的に弾性線維変性に肉芽腫性炎症を伴っている所見が観察される場合、本疾患の存在を認識しておく必要がある。

Key word：結膜腫瘍、Actinic granuloma、瞼裂斑炎
Conjunctival tumor, Actinic granuloma, Pingueculitis

＝ 緒 言 ＝

Actinic granuloma は日光により障害をうけた皮膚に生じる肉芽腫性炎症で、O'Brien¹⁾が1975年に皮膚科の雑誌に報告した。病理組織学的に、弾性線維変性 (elastotic degeneration) と多核巨細胞を含む肉芽腫性炎症を特徴とする疾患である^{1, 2)}。PubMed を検索すると、眼科領域では Proia ら³⁾が1983年に結膜の actinic

granuloma を報告したのが最初である。現在まで8つの文献があり、合計で16例が報告されている³⁻¹⁰⁾。その多くが球結膜にみられる数mm大の隆起性病変で、瞼裂斑炎に類似している。結膜の actinic granuloma は非常に稀で、本邦からの報告は1例もない。今回、瞼裂斑炎に類似した結膜の actinic granuloma の2例を報告する。

第39回日本眼腫瘍学会のご案内

会 期：2022(令和4)年9月17日(土)～18日(日)

会 場：国立がん研究センター研究所 大会議室

会 長：鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院)

事 務 局：国立がん研究センター中央病院 眼腫瘍科

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

第40回日本眼腫瘍学会のご案内

会 期：2023(令和5)年9月23日(土)～24日(日)

会 場：なんばスカイオコンベンションホール

会 長：高橋 寛二(関西医科大学 眼科学教室)

第41回日本眼腫瘍学会のご案内

会 期：2024(令和6)年9月28日(土)～29日(日)

会 場：京王プラザホテル東京(新宿) 予定

会 長：後藤 浩(東京医科大学 臨床医学系眼科学分野)

日本眼腫瘍学会誌

発 行 日：2022年8月24日

発 行 行：日本眼腫瘍学会

発 行 人：理事長 古田 実

事 務 局：スタッフルームタケムラ有限会社

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-4-7

TEL：03-5287-3801 FAX：03-5287-3802

編集責任者：小幡 博人

出 版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

<https://secand.jp/>